

サービス推進室では、医療安全に関する情報を収集し、看護業務で役立つポイント等を付加して提供しています。点検ツールとしてお役立てください。

No.1

医療事故情報収集等事業第65回報告書¹⁾(2021年6月発行)の分析テーマの「発声機能付き気管切開チューブ・スピーチバルブの取り扱いや管理に関連した事例」について情報提供します。

同報告書の分析対象期間(2021年1月～3月)に、患者に挿入されていた発声機能付き気管切開チューブが分泌物で閉塞し、低酸素脳症となった事例が報告された。また、同事業にはスピーチバルブの取り扱いを誤った事例が報告されているため、事例を遡り、2015年1月～2021年3月に報告された医療事故事例を検索した後に、その中から発声機能付き気管切開

基本であり、また、患者の気道分泌物の性状、
とが必要です。患者の呼吸を整えるケアを安全に行うために、

★発声機能付き気管切開チューブ・スピーチバルブの取り扱いや管理に関連した事例

https://www.med-safe.jp/pdf/report_2021_1_T004.pdf

《参考資料や URL について》

- 1) 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部 医療事故情報収集等事業 第65回報告書(2021.7.19 検索)

https://www.med-safe.jp/pdf/report_65.pdf